

令和6年度 学校経営報告(学校評価報告書)

四條畷市立岡部小学校

校長 木村 実

Ⅰ 学校経営方針

Ⅰ 四條畷市教育振興基本計画を参酌して

予測不可能な時代を豊かに生き抜き、未来を拓く人材の育成をするには、全ての児童が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要である。

学校はその環境の一部であることから、四條畷市教育振興基本計画の基本理念『みんなの学びが叶うまち～生涯学び 夢 挑戦～』の実現に向け、学校の基本方針を以下、設定していく。

2 学校教育目標

『健康で よく考え 仲良く がんばりぬく子ども』の育成

～思いやり 感謝 ベストな自分～

3 学校教育目標を実現するための施策について

基本方針Ⅰ『主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進』を受けて

①確かな学力の育成

○令和6年度校内研修の教科を、『探求を主とした総合的な学習・生活科』とし、研究テーマを『学んだことをいかして子どもたちが課題解決を楽しめる授業づくり』とする。

○積極的に ICT 機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

○『学びのプラン』に基づく組織的な学校の取組みを推進していく。

②豊かな心の醸成

○一人ひとりを大切にする人権教育、教育活動全体を通した道徳教育、地域に根差した郷土教育の充実

○誰一人取り残さない、誰もが居場所のある学級、学年集団づくり

③健やかな体の育成

○スポーツテスト結果からの体力づくりアクションプランに基づく体力向上の取組みの実施

○食育の推進

基本方針2『個を認め合い、寄り添い、活かす教育の推進』を受けて

①ライフステージに応じた継続的な支援の充実

○個に応じた支援の充実、UDの視点を取り入れた授業デザイン

○関係諸機関、専門家と連携し、不登校を生みださない発達支持的生徒指導体制の確立

②多様なニーズに即した教育の提供

基本方針3『地域コミュニティづくりへの支援』を受けて

①家庭・地域・学校の連携、協働の推進

○学校運営協議会による学校サポート体制の発足

○地域、家庭、学校をつなぐイベントの実施

基本方針4『豊かな生涯学習活動と地域を想像する学びの支援』を受けて

①生涯を通じた学習活動の推進

○読書習慣定着に向けた取組みの強化

基本方針5『学びを支える教育環境の整備』

①安心・安全な施設等の段階的整備

○OPTAと通学路における危険個所の点検を行い、必要な対策について関係課と連携していく

基本方針6 『学びを支える教育体制の整備』を受けて

①教員の資質能力の向上

○全学年で授業公開を行い、教員の資質向上を常に図っていく。

○キャリアステージに応じた指導力向上のための質の高い研修を実施する。

②持続可能な指導体制の整備

○FOT(ForOkabeTime)の継続実施。教職員一人ひとりが学校運営に参画

○授業準備や子どもと向き合う時間の更なる確保を趣旨に、教員の業務を整理し負担軽減を図る

③ICT 利活用のための基盤整備

○校務のICT化を図り、業務の負担軽減とともに、教育の質の向上を図る。

4 具体的な重点取組み

①総合的な学習の時間、生活科を中心とした授業研究、授業改善の推進

②未然防止を主旨とした、不登校を生み出さないための学校の仕組み、仕掛けづくり

③支援教育の視点を含め、個を認め合い、尊重し合える学級、学年集団づくりの実践

④学校、地域、保護者それぞれが主体となり、連携し、行事を創り上げていく。

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	○学校教育目標「健康で よく考え 仲良く がんばりぬく子ども」の育成 ・子どもが生き生きと活動する安心安全な学校 ・保護者や地域とともに子どもを育む学校 ・教職員が互いに切磋琢磨し高め合う学校
★めざす子ども像	○何事にも自分の考えを持ち、主体的・意欲的に取り組み、思いを表現できる子 ○「お・か・べ」・・・「お」もいやり 「か」んしゃ 「べ」ストな自分 ・相手の気持ちを考える優しく豊かな心の子 ・自分の弱さに負けない強くたくましい心の子
★めざす教師像	○子どもの実態を的確に把握し、適切な指導ができる教師 ○主体的に問題を捉え、広い視野で解決できる教師 ○人間愛にあふれ、明るく前向きに職務を遂行できる教師

3 学校の現状（よさと課題）

（1）子どもたちの実態

本校の子ども達の強みは、元気で優しく素直で、任せられたことは責任を持ってやり切る力があることである。高学年になるとリーダーシップを発揮し、自主活動を積極的に展開していく。そんな強みを持つ児童に対し、さらに求めたいのは、他者の思いを慮ったり、自分の思いを様々な方法で表現したりすることである。

※教育振興基本計画の測定指標に係る本校の児童のようす

項 目	肯定的回答（％）		
	令和３年度	令和４年度	令和５年度
自分には良いところがあると思う児童の割合	89.7%	80.0%（↓）	82.7%（↑）
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合	95.6%	92.9%（↓）	93.3%（↑）
将来の夢や目標を持っている児童の割合	79.4%	77.2%（↓）	74.7%（↓）

（2）子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

広い運動場、自然に囲まれた好環境に加え、中規模改修以降、明るくきれいな校舎内や教室、開放的な廊下、各教室には空調設備や大型テレビが配置され、個人用タブレットPCが市より貸与されている。ソフト面においても、教職員の指導のもと、学習規律を大切に、落ち着いた雰囲気での学習活動に取り組むことができている。

②地域

地域は学校に対して協力を惜しまない恵まれた環境である。関係自治会の方々とは、学校だよりを持参し、時々において情報交換を行うなか、連携を図らせてもらっている。

③組織（教職員、PTA、保護者）

- 教職員 学校教育目標の実現のため、ベクトルを揃え日々教育活動に熱意をもって取り組んでいる。
- 任意団体としてのPTAや自治会と連携し、地域ぐるみで子どもを育てる仕組みを深化させる。

4 今年度の達成目標、具体的な方策と評価

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標

達成基準（各種調査、アンケート等）

学校の教育力の充実

市授業改善に関するアンケート
学校教育自己診断アンケート

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	結果	評価
全学年での研究授業、実践報告会の実施	100%	100%	本年度より研究教科を生活・総合的な学習の時間とし、探究活動について授業研究を重ねてきた。様々な方からのご指導ご助言を仰ぎ、一定の年間計画をも

			とにした取組みを行うことができた。
授業はわかりやすく楽しい (児)	(児) 90%	(児) 84%	達成基準に到達していない。授業のユニバーサルデザイン化を中心とした授業改善を行い、見通しを持った授業づくりに力を入れてきたが、さらなる改善が必要である。
学校に行くのが楽しい (保)(児)	(児) 85% (保) 92%	(児) 79% (保) 89%	児童、保護者ともに基準に達していない。学校に来たら友達に会える、先生と過ごせる、新たな学びや発見があるなど、児童に実感させ切れていないのが現状であり、その思いを聞く保護者の数値も達していないのは必然である。学校行事も含め、児童が楽しいと思えるよう、活動を見直していく。
担任等はお子さんの気持ちを理解し、家庭と適切に連携を図っている(保)	(保) 95%	(保) 96%	目標を達成している。児童の成長は、保護者との円滑な連携が必須であり、情報交換をし合いながらサポートしていかなければならないと改めて認識をした。
自分を大切にすることや相手への思いやり、感謝について道徳などで学んでいる(児)(保)	(児) 95% (保) 95%	(児) 94% (保) 96%	児童、保護者ともほぼ基準を達成している。引き続き、学校教育目標にもある思いやりや感謝について、強制されるものでなく、感謝された時の気持ちを大切にする発信を進めていきたい。

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
学校組織力の向上と運営体制の見直し		学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
各分掌や学年間の連携は円滑かつ有機的に機能している	（教）100%	（教）97%	全職員が同じベクトルで学校教育推進にあたること が児童にとっての利益につながると考える。連携が円滑でなかったポイントを明らかにし、総括の中で改善策を見出したい。
様々な問題事案を未然に防止するため、生活指導部が中心となって取り組んでいる	（教）100%	（教）100%	未然防止の取組みとして、学級集団づくりや魅力ある学校行事などを今後も継続していく。また、校内教育支援ルーム『なちゅらる』の運営についても教職員の共通理解を図り、持続可能な取組みにつなげていきたい。

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
教職員の資質の向上		学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
初任者など経験の浅い教職員を学校全体で育成している	(教) 95%	90%	基準値に達成していない。校内では指導についてのミニ研修を数回に分けて実施してきたが、経験の浅い教員が今抱えている困り感に寄り添えたのかという点について、点検していく必要がある。
服務、不祥事の防止について、職員会議で周知徹底を図る	(教) 100%	100%	服務、不祥事防止については、機を逸せず職員会議内での講話や授業支援ソフトを使った教職員への周知、チェックボックスを活用した参加型研修などを実施し、周知徹底を図っている。

目標設定区分4『地域連携と渉外』			
A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
地域の教育コミュニティづくりと家庭教育への支援		学校運営協議会で成果や課題に対する助言の共有内容 学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
ホームページ更新	月2回以上 ※R5 月2回以上	月平均3回以上の更新を実施	WEB上での情報発信は、学校だより、保健だより、学力向上通信、学年のようすのほか、下校時刻変更、3学期からは学年だよりなど、必要かつタイムリーな情報発信に努めてきた。
学校運営協議会の活用	年5回以上の会議を実施	年3回の会議を実施	会議自体の回数は減ったものの、本校においてはCSで依頼をしていた『おかべ夏 Fes2024』『おかべ Fse2024 ♪』『おかべ冬 Fes ♪』の実施や、市職員の協力を得て、ニーズの高かった校庭開放の試行実施を行っており、活動は活発になっている。
宿題を含む家庭学習では、15分×学年の時間を取組めている	(児)60%	50%	家庭学習時間を定着させるために、特に下半期はAIドリルの利活用を担当が中心となって進めてきたことにより、改善が図られている。また、自主学ノートの取組みも、交流会を実施したり、掲示方法や評価方法を工夫したりすることで、さらなる改善を図っていく。

5 学校関係者による評価（学校運営協議会等）

【西中校区学校運営協議会】

- ・校庭開放など、子どもたちや保護者の要望に沿って、積極的に取り組んでいる。
- ・おかべ Fes をはじめとして、地域を巻き込んだ学校行事の在り方を模索し、成果を上げている。
- ・西中校区内の連携をさらに強めてほしい。

【おかべ Fes2024♪ 実行委員会 ふりかえり】

- ・おかべ Fes を通じていっそう岡部小に親しみを持てた。
- ・先生方の取組みは大変良かったのですが、無理のないように。
- ・教職員も子どもも本当に楽しそうな時間になってよかった。来年もぜひ。

【学校保健委員会】（年 2 回実施）

- ・児童の健康を保つために、学校で行っている健診や保健委員会の活動は適切である。
- ・児童の健康状態について、保護者も気にかけている様子がとても伝わってくる。

【民生委員さんとの連絡会】（学期ごとに実施）

- ・定期的に連絡会を持つことで、学校のようなすがよくわかってありがたい。
- ・子どもの支援のために、日常的な連携が必要。

6 総合評価と次年度に向けて

①学校教育自己診断より

【児童アンケートより】

肯定的回答が多かった順に、「自分を大切にすることや相手への思いやり・感謝について道徳などで学んでいる」（94%）「タブレットパソコン、大型テレビ、書画カメラ、を使った授業は、わかりやすい。」（93%）、「通知表の成績には納得ができる。」（91%）、「学校では、一人ひとりが大切に されている。」（91%）となっている。以上の上位 4 項目についてはすべて昨年度比で数ポイント上昇している。ICT を活用した授業やAIドリルの利活用については授業で積極的に活用できるようミニ研修を随時実施したり、活用好事例を共有したりするなど授業改善を図ってきた結果であると考ええる。また、通知票、一人ひとりが大切にされるについても、児童理解研修のもと、児童の困り感に寄り添い、状況に応じて適切なサポートができていたと考える。

逆に、肯定的回答が少なかった順に「宿題を含む家庭学習では、「15分×学年」の時間に取り組んでいる。」（50%）「授業や学級会などでは、意見を発表するようにしている。」（56%）、「すいすいタイムやもくもくタイムで書く力、伝える力、説明する力などがついた。」（65%）という結果となった。以上 3 項目は、昨年度比で数ポイントずつ下回る結果となっている。家庭学習や自学自習について、自主学交流会や通信発行などで意欲喚起してきたが、今後はそれらの継続とともに、AIドリルのさらなる利活用が必要であると考ええる。

【保護者アンケートより】

肯定的回答が多い順に、「安全指導（様々な避難訓練や交通安全教室など）の取組みは適切だと思いますか?」、
「個人懇談等では、お子さんの学習や生活の様子などが分かるように説明されていると思いますか?」「学校は、ホ

ームページ更新やメール配信などを通じて適宜情報を発信していると思いますか？」(いずれも98%)となっている。特に安全に関しては、避難訓練の実施など保護者を安心させる取り組みが多かったのではないかと。また、学校生活の説明や情報発信についても、高い数字で肯定されていることから、今後も保護者との連携を図るためにも継続していきたい。

逆に、肯定的回答が少なかった順に、「タブレット端末は、授業や宿題などで有効に活用されていると思いますか？」(81%)、「すいすいタイム(絵や図に表す)、もくもくタイム(読解)が学力向上につながっていると思いますか？」(83%)、「お子さんの宿題や自主学ノートを見たり、それについて話したりする機会がありますか？」(83%)となった。昨年度比で数ポイントずつ改善は見られているが、今後、特にタブレット端末の活用については、更なる利活用を保護者が求めていると捉え、より有効的な活用について研究していく。

②教育振興基本計画の測定指標に係る本校の児童のようす

項 目	肯定的回答(%)		
	令和4年度	令和5年度	令和6年度3学期
自分には良いところがあると思う児童の割合	80.0%	82.7%	81.0%(↓)
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合	92.9%	93.3%	96.3%(↑)
将来の夢や目標を持っている児童の割合	77.2%	74.7%	81.4%(↑)

③総合評価

今年度は、学校行事をはじめすべての教育課程の見直しを図る機会となった。その結果、教育課程が精選され、より児童の実態に即した教育活動を行えたことは成果と言える。

また、授業改善という視点からは、児童の興味関心から出発する授業づくりを心掛け、校内研修も教科を生活、総合的な学習の時間とし、探究活動について学びを深めたことで、子どもたちの学ぶ意欲につながっているのではないかと感じている。

次に、児童支援、サポート体制の構築については、学校体制の見直しを図り、教育支援ルーム『なちゅらる』の運営を行ってきた。全職員で児童を見守っていく、サポートしていくことを心がけてきたことで、個に応じた支援体制を組むこともできたことも成果と言える。半面、関わりについての迷いが生じることも課題となり、共通理解をどのように図っていくかという課題も明らかになった。

これらのことから、めざす学校像、めざす教職員像についてはおおむね達成されていると捉えているが、めざす子ども像のうち、「何事にも自分の考えを持ち、主体的・意欲的に取り組み、思いを表現できる子」については、今年度の児童アンケートからもまだまだ苦手意識を持つ児童が多い。このことから、児童一人ひとりの意思を尊重しつつ、安心できる居場所、環境づくり、学校づくりを強く推進していく必要がある。

そして、これらを具現化させるためには、子どもと向き合う時間や教材研究の時間を確保するための教員の働き方改革も必須となる。本校独自で取り組んだ3月オール5時間授業などの教育課程の見直しや、協働体制であるFOT、月に一度授業や会議を入れない午後フリーの時間とした『おかげ HAPPY HOUR♪』、転勤者の声を早期に生かすべく中間総括体制など、教員のモチベーションアップにつながる取組みを積極的に取り入れていきたい。

最後に、地域の中の学校として、保護者や地域の方々の願いを受け止め、PTAによるFesや今後検討されるCSの枠組みでの校庭開放などに協力を惜しまず取り組んでいく。

④次年度に向けて

授業改善と集団づくりは学校運営の両輪とし、安心して安全な居場所づくりと、「わかった」「できた」が響き渡り、自分の存在が認められている、ここに居場所があると感じる児童の姿を見られることをめざしたい。そのために、教職員が同じ方向を向き、各取り組みに対しについて合意形成を図りながら、教職員のモチベーションが上がるよう、環境の醸成を図るとともに、教育課程の改善、カリキュラムマネジメントに努めていく。それこそが、四條畷市教育振興基本

計画の基本理念『みんなの学びが叶うまち～生涯 学び 夢 挑戦～』の具現化であると確信する。

今後も子どもたちだけでなく、保護者、地域の方、教職員の幸せを願い、全力で学校教育活動推進に邁進していく。

令和 7 年 3 月 19 日
四條畷市立岡部小学校
校長 木村 実